

第3章

“あなたが感じる季節のことば”

第3章では平成24年3月から平成25年3月までの記録をまとめています。

- ◇ “季節のことば”についてのアンケート調査結果は？
- ◇ “あなたが感じる季節のことば”の募集から
「季節のことば36選」の選定まで

(1) 現代の季節感に向き合う

“あなたが感じる季節のことば”の募集を行う以前に二十四節気の認知度調査（Webアンケート）や“季節のことば”街頭アンケート調査を行っています。これらの取り組みとアンケート調査の結果から見え隠れする現代の季節感について紹介します。

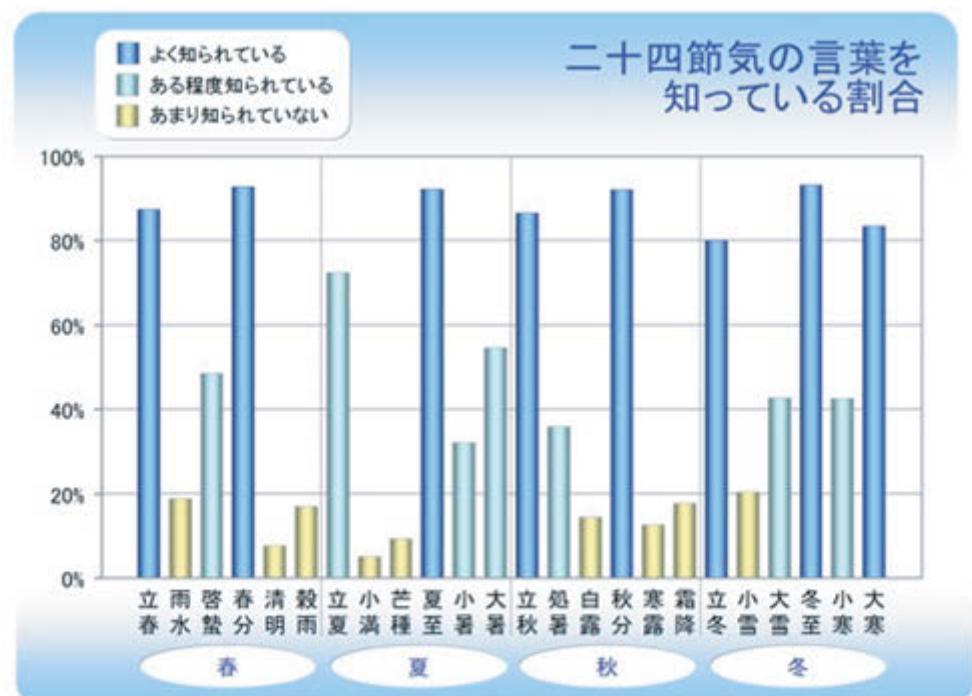
1) 二十四節気の認知度調査 Web アンケート（平成 23 年 8 月）

楽天リサーチの Web アンケートを利用して「二十四節気の認知度」と「季節の変化を感じる自然現象」について調査を行いました。

アンケート期間：平成 23 年 8 月 26 日～9 月 2 日（8 日間）

アンケート回答数：4000 名（対象は日本国内の 15 歳以上の男女）

【Q1】「二十四節気」（総称）を知っていますか	【Q2】「二十四節気」の節気名（立春、大寒など）を知っていますか？
回答の多い順に	「(節気名を1つ以上)知っている」 97%
「知らない」 53%	知っている節気名の数は、Q1の回答別にみると、
「総称のみ(知っている)」 39%	「(二十四節気[総称]を知らない」 平均 9 個
「内容も(知っている)」 8%	「総称のみ(知っている)」 平均 14 個
	「内容も(知っている)」 平均 18 個



二十四節気に関する認知度調査（全国4000名対象）より

「二十四節気」の総称は知らなくても、立春などの節気はテレビ・ラジオ、天気予報、暦などで見聞きすることが多いようです。

「Q4 の二十四節気について」に関する質問は、変更不要が 62% と一番多く、「二十四節気は大切な季節のことば」「もっと普及を」という趣旨の自由記載意見も多くみられました。

【Q3】二十四節気＜立春など＞をどこで見たり聞いたりしますか。

- 「テレビ、ラジオなど」(60%)
- 「天気予報」 (57%)
- 「新聞、雑誌など」 (22%)
- [Web で] 「mixi、Twitter、FacebookなどのSNS」(1%)
- 「インターネット」(5%)、「ブログ」(1%)
- 「気象庁や日本気象協会などのホームページ」(4%)
- [暦で] 「カレンダー」(44%)、「高島易断などの暦」(5%)
- 「手帳」(12%)
- [本で] 「教材」(4%)、「図書」(4%)
- [人から] 「家族・友人・知人の話」(10%)
- 「高校・大学など、教育機関での授業・講義」 4%
- 「覚えていない」 (7%)
- 「その他(自由記載)」 (1%)

【Q3】その他(自由記載)の回答より

- 俳句の季語(宮城県・男性)、句会(宮城県・女性)
- 短歌を作る時(石川県・男性)
- 手紙のあいさつ文(愛媛県・女性)手紙文例集(宮城県・女性)
- 天文年鑑・理科年表(富山県・男性)、二十四節気一覧表(埼玉県・女性)
- 小冊子(和歌山県・女性)
- ビルの掲示板(石川県・女性)、茶道(宮城県・女性)
- 昔習っていたお茶の先生のお話で(岡山県・女性)
- 季節をみんなに知ってもらうため勉強した(広島県・男性)
- 着物を寒干しするとき(大阪府・女性)
- 携帯の日付表示(石川県・女性)、携帯待ち受け画面(神奈川県・男性)
- 「こよみ」というアプリ(東京都・男性)
- 学生時代の授業・国語辞典(富山県・女性)
- 天文関係のメルマガ(埼玉県・男性)、購読しているメルマガ(山形県・女性)
- ウエザーニュースのメール(福岡県・男性)
- 業務で(東京都・女性) ほか

【Q4】二十四節気に関して(複数回答)

- | | |
|---------------|--------|
| 「変更不要」 | (62%) |
| 「ことばを変更してもよい」 | (38%) |
| 「節気の数を減らす」 | (8%) |
| 「節気の数を増やす」 | (0.3%) |
| 「二十四節気は必要ない」 | (4%) |
| 「その他」 | (7%) |

【Q4】その他の回答より

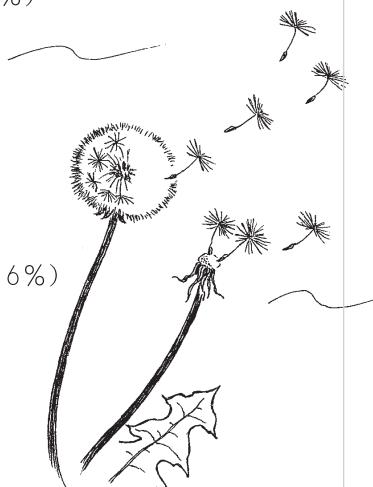
- 現代の季節感とは少しずれているが、美しい言葉だと思うのでそのままあってほしい
(広島県・男性)
- もっと馴染める様に、色々な場面で使って欲しい。(岩手県・女性)
- 先祖たちが考えてくれたものも大事にした方がいいと思う。(静岡県・女性)
- 天気予報などでもっと頻繁に耳にするようにしてほしい(福島県・男性)
- 美しい表現の日本語だと思う。(北海道・男性)
- 地名みたいにひらがな表記にしてしまったり、英語を取り入れたりは絶対にしないで欲しい(東京都・男性)
- 学校でちゃんと教えるべき言葉だと思う。古くからの素敵な言葉をなくさないで欲しい。
(福井県・女性)
- 意味を知る機会がほしい(神奈川県・男性)ほか

地域によって季節を感じる自然現象に違いはあるでしょうか？

「Q5 身のまわりで季節を感じる自然現象は？」の回答からは五感で季節の変化を感じていることがうかがえます。

【Q5】身のまわりで季節を感じる自然現象は？(複数回答)

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 日差しの強さ弱さ(太陽の傾き、太陽の色、空の色 など) | (65%) |
| 日照時間の変化(影の長さ、日の出・日の入時刻の変化 など) | (80%) |
| 気温の変化(朝夕の冷え込み など) | (86%) |
| 動物・植物(虫の声 など) | (54%) |
| 雨の降り方・降る量(雷雨、落雷 など) | (23%) |
| 雪の降り方・降る量(初雪、山の残雪、雪解け など) | (35%) |
| 雲の形、雲の流れ(空の高さ など) | (34%) |
| 湿度の変化 (空気が澄む など) | (33%) |
| 川の流れ(せせらぎ) | (4%) |
| 森林の緑(変化など) | (50%) |
| 霧の発生 | (12%) |
| 台風の発生 | (32%) |
| 風の強弱(風の音、木枯らし・春一番、風の向き など) | (16%) |
| (自由記載)空気のにおい・風のにおい | (1%) |
| (自由記載)その他 | (0.5%) |



【Q5】自由記載の回答より

海の近くに住んでいるので空気の匂いで(福島県・女性)
空の色(東京都・男性)、海の色(山口県・男性)
花粉の量(埼玉県・男性)
水道水の温度、花(東京都・男性)、海水温の変化(山形県・男性)
風の冷たさ(北海道・女性)
天気予報で同じ温度でも風で感じる温度が違うこと(宮城県・女性)
空気(うまく表現できないが季節によって外の空気が違うと感じる)(北海道・男性)
遠くから聞こえてくる音(北海道・男性)朝晩の冷え込み(福岡県・男性)
雪解けのにおい、秋の稻穂を焼く臭い(北海道・女性)
土の匂い(秋田県・男性)
自分の体調など(大阪府・女性)、関節痛(富山県・女性)
店頭に並ぶ旬の野菜や魚(兵庫県・女性)
人々の服装、季節による食べ物の変化(東京都・男性)
服の変化(神奈川県・女性)
屋外の行動時間(京都府・男性)
日本の色々な季節の行事や行動(青森県・男性)
人工的な空間を好む方はいざ知らず、生きていること自体が、季節の変化に順応している。森羅万象から変化を感じている。(青森県・男性)
会社の年間予定(大阪府・男性)、近年は季節感がなくなっている(佐賀県・男性)
見える山々の残雪量、雪形(新潟県・女性)

自由記載の回答の中には、自然現象とは違う回答もありましたが、このアンケート調査の半年後に募集がはじまった“あなたが感じる季節のことば”に「多様なことばが集まるだろう」と想像できる回答の数々でした。

特にWebで選択肢がある質問であるにも関わらず、多くの方が自由記載欄にご意見を寄せていたのが印象的でした。

また、二十四節気のひとつひとつの意味について自由に記載していただいた結果、本来の意味と違う解釈がされていたり、「意味がわからない」という意見が多くありました。

また、よく知られている「夏至」も「一番暑い日、夏の終わり」と時期を勘違いしている例も多いことがわかりました。

二十四節気でわかりにくい印象が多かった節気

「」は二十四節気ひとこと解説

雨水(2月18日頃)「春の雨が降りはじめる」

× 雨が一番多い頃、梅雨、雨降りがつづく

× 5月ころの雪解けの水

清明(4月5日頃)「麗か(うららか)」

× 安部清明(陰陽師)、さわやかな秋の頃

× 秋晴れ、イメージがわからない

穀雨(4月20日頃)「穀物が芽吹くころ」

× 梅雨のはじまり、夕立、秋に降る雨、秋雨

× 収穫期の雨

小満(5月21日頃)「若葉の輝くころ」

× よくわからない、夏から秋の間

× 季節のイメージがわからない

芒種(6月5日頃)「麦の熟れるころ」

× 芽が出る、実りの秋、ススキの穂ができる

寒露(10月8日頃)「肌寒さを覚える」

× 窓に結露、煮物

「芒種」の「芒」とは米や麦の実の外側にあるかたい毛のことです。訓読みは「のぎ」または「のげ」です。

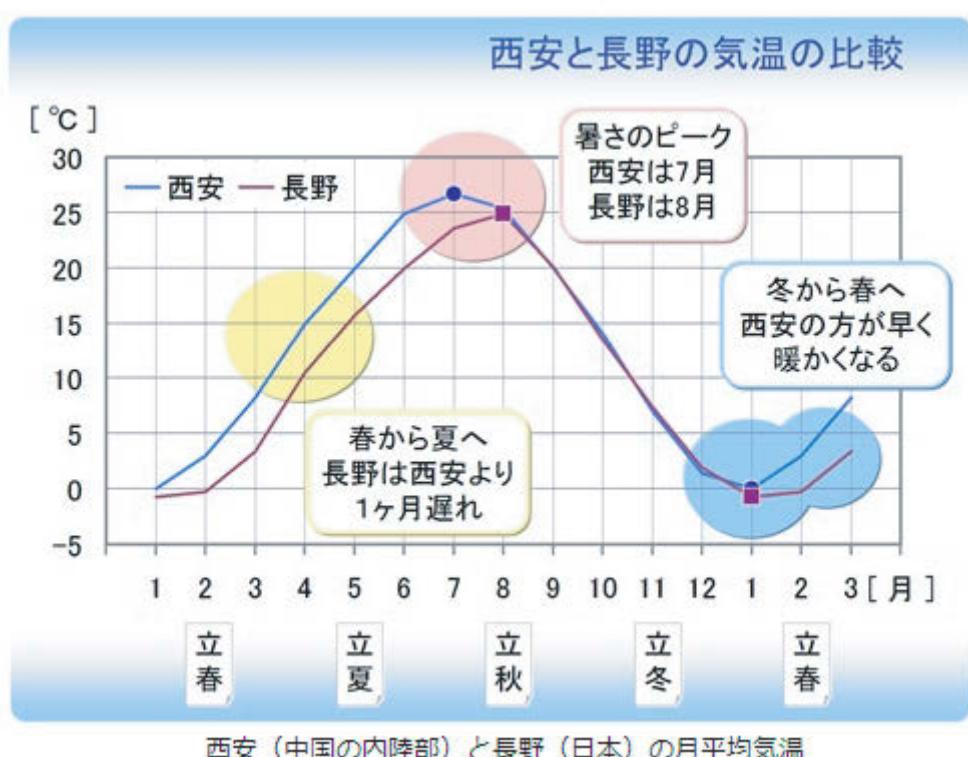


このアンケート結果については、第1回専門委員会でも検討されました。

節気によって認知度が異なる傾向は、山口委員が大学で学生に調査した結果も同じ傾向であったとのことでした。

漢字からもたらされる節気の印象と実際の季節感との違いについては、気象データと専門委員の文化論からも検討されました。

例えば、二十四節気の生まれた中国と日本の月平均気温の変化を比較すると（下図）、暑さのピークは日本の方が1ヶ月ほど遅れています。日本では立秋の頃暑さのピークですが、中国では暑さのピークをこえた頃となっています。冬から春へ向かう時期の気温は中国の方が気温の上がりだす時期が早いです。日本では立春の頃はまだまだ寒いですが、中国ならそろそろ気温が上がり出す時期に相当するのです。



また、認知度の低かった「二十四節氣」の総称ですが、読みは「にじゅうしせき」のみ。「よん」は訓読みなので混じらない・・・と解説がありました。

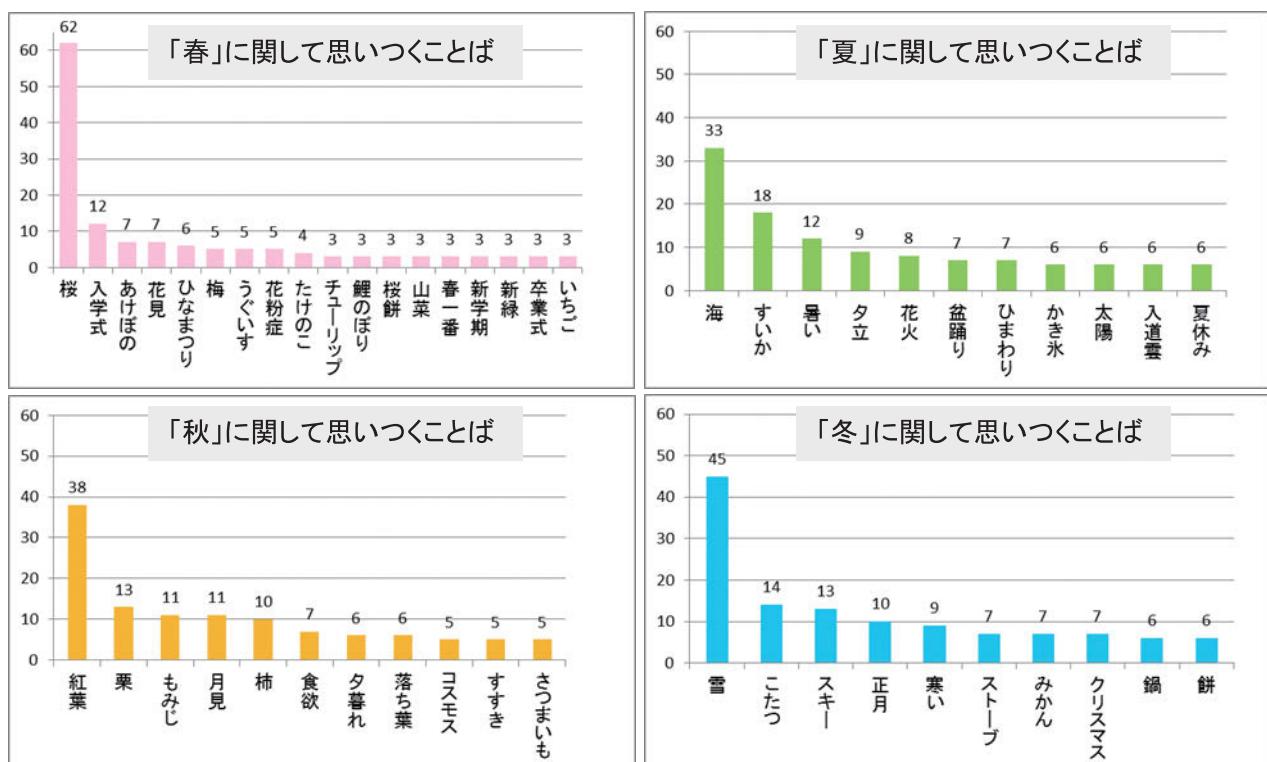
この二十四節気の認知度調査での意見も踏まえて、専門委員会（のちの選考委員会）で二十四節気をわかりやすく解説する「二十四節気ひとこと解説」も作成することになりました。

2) “季節のことば” 街頭アンケート調査

2012年6月5日(火)に、東京都台東区にある上野恩賜公園で、春夏秋冬それぞれの“季節のことば”をアンケート調査しました。回答数は99名、学生から年配の方々まで幅広い年代の方々にご協力をいただきました。

質問は、「春・夏・秋・冬それぞれの季節に関して、思いつく言葉を教えてください（複数回答可）」です。

季節ごとの回答は以下のとおりです。



※各項目の縦軸は人数

上野のアンケート調査では、既に「季節のことば36選」となることばが回答されていました。

季節ごとに人気のことばがあり、現代の「季節のことば」として共通のことばを選べるという手ごたえを感じた調査になりました。



アンケート調査の様子

(2) 公開イベント「季節のことば、今昔物語。」開催

“あなたが感じる季節のことば”をたくさん応募していただけるようにと公開イベント「季節のことば、今昔物語。」（第4回日本気象協会メセナ）が平成24年8月31日(金)に開催されました。厳しい暑さが続いた8月の最終日、東京の最高気温は33.8℃（前日は35.6℃！）でした。この公開イベントの会場で“季節のことば”応募第1号の「腕まくり（夏）」ほかが投函されました。

ここでは、簡単に「季節のことば、今昔物語。」開催内容を紹介します。



なお、詳細は卷末資料3をご覧ください。司会者とゲストのかけ合いの中に「季節のことば」のもつ豊かさ楽しさを味わうことができます。

公開イベント「季節のことば、今昔物語。」

◎第一部 「ことばと暦の歴史」

歌に詠まれた季節感(和歌の朗読):

石井和子氏

(元TBSアナウンサー 日本気象予報士会顧問)

季節の寄席のはなし:

三遊亭右京氏(落語家)

日本の暦の歴史・暦をつくった男のはなし:

岡田芳朗氏(暦の会会长)

片山真人氏(国立天文台暦計算室長)

井上文雄氏

(角川映画「天地明察」プロデューサー)

◎第二部

「お天気キャスターのことばの使い方」

ゲストに金田一秀穂氏(杏林大学外国語学部教授)をお迎えし、お天気キャスターの天達武史氏、南 利幸氏、福富里香氏の3名と一緒に「お天気キャスターのことばの使い方」と題して爆笑トークを繰り広げました。

◎第三部

季節の言葉で遊ぼう!「お天気クイズ」

気象の知識うそ?ホント!!

(第一部 「ことばと暦の歴史」より)

＜歌に詠まれた季節感(和歌の朗読)＞

和歌のなかに垣間見ました平安人たちの季節感はいかがだったでしょうか？

昔の人たちは自然の豊かさの中から、心の豊かさ、言葉の豊かさも色々紡(つむ)ぎだしていましたという気がいたします。(石井和子氏)

＜季節の寄席のはなし＞

「二十四節気(にじゅうしせき)」、日本に季節感があってこういう言葉があるというのは、私はあらためて勉強しなくちゃいけないと思います。それでは、なぞかけでございます。(三遊亭右京氏)

「二十四節気とかけまして、
今日ご来場のお客様の
人生とります。」
「その心は、
節目を大事にいたします。」

＜日本の暦の歴史・暦をつくった男のはなし＞

「秋分の日が9月23日でないのは?」「えっと、三十数年ぶり。平成では初めてです！」
(平成24年は9月22日でした。)(片山真人氏)

「旧暦のお盆は毎年ずれていきます。本当の旧暦のお盆というのは、ふら、ふら、ふら、ふらっと動いているわけです。」(岡田芳朗氏)

映画「天地明察」:囲碁打ちであった安井算哲(やすい さんてつ)という多種の技能をもった人です。800年間、中国からきていたずれた暦を使ってたのを天文等々調べ上げたあげく、自ら計算もして、日本で初めての暦をつくったという話です。今みたいなコンピューターがない時期に、いろいろ挫折がありながらも最終的になしとげるという感動的なお話をございます。原作を読んだ時に「本当にこんな日本人がいたのか」と誇らしく思いました。(井上文雄氏)



(第二部「お天気キャスターのことばの使い方」より)

三人のお天気キャスター(天達武史氏、南 利幸氏、福富里香氏)のお天気解説に金田一秀穂氏のするどいつっこみがありました。

天気予報の内容はどうして「注意しろ！」で終わるのでしょうか。「心温まる解説はあり得るか？」が大きなテーマに。

(金田一氏)「熱帯の注意」っていったい何でしょう。(笑・笑・笑)

「ボルト高気圧(早く進む高気圧)」の絵で解説した天達さん、俳句交えてやわらかな内容で解説した南さんを終えて。

(梶原氏)金田一先生のお話、おっしゃるところですね。危機・危険をあおって「大変だぞ！ 大変だぞ！ 大変だぞ！」って、「大変が来なかつたらそれはそれで良かったろう」って。「大変って言わなかつたから後で責任とらされるんじゃないいか」って官僚根性丸出し、役人根性じゃねえのかっていう(笑)。

(金田一氏)一度、ひとつぐらいはね。逆に結論をまず出して、どうしてかというのを後でやってくれるような天気予報があつてもいいなあという気がするんですよねえ。

「ラジオは言葉で伝えなくてはいけないので、ちょっとハードルが高いです。」と宣言して福富氏が金田一先生の期待に応える解説をご披露。

(梶原氏)「福富さんが一番良かった、ラジオのが一番良かったという人、手を挙げてください！」(会場の挙手多数)あらららら…。

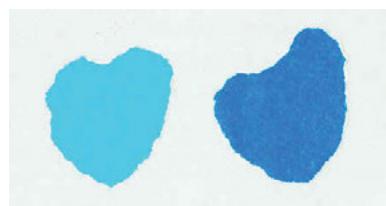
(梶原氏)「これ天気予報に使えたらしいなあ」という言葉ありませんか？

(金田一氏)日本人は「うつろい」を大切にするんですよ。それで「もののあわれ」をわりと大切にする。そういう時に「うつろい」は変化だと単純に思うわけですが実は単純な変化じゃない。「うつろい」は何かが盛んになることではなくて、盛んだったものが衰えていくことをいう。だから、「心がうつろった」と言つたら今まで大好きだった人がもう心がここにない。「夏がうつろう」といったら夏になることではなくて夏が終わることなんですよ。だから、わりとその季節の言葉でもいいものは「夏がだんだん暑くなります」という言葉もちろん素敵ですけども、「夏が去っていきます」とか「夏の終わりです」という方が私たちの心にしみちゃうんじゃないかな。(一同:ああ～)

(梶原氏)「バケツをひっくりかえしたような」というけど、あまり最近バケツないよなって(笑)。

この後は、納得いかない表現の数々(「ところにより雨」、「未明」など気象庁の決めた時間帯区分など)について紹介したり、気象キャスターの意気込みがわかるお話しがありました。

(詳しい内容は巻末資料3でどうぞ。)



(3) 「あなたが感じる季節のことば」募集

この節では、「季節のことば36選」につながる“あなたが感じる新しい季節のことば”的募集内容や応募されたことばについて紹介します。応募要領は平成24年7月に日本版二十四節氣第2回専門委員会の議論を経て決定しましたが、同時に委員会の名称も日本版二十四節氣を作るわけではないので、新たな名称とすることとし「季節のことば選考委員会」としました。

1) 募集内容

募集内容は以下のとおりです。

応募期間：2012年8月7日[立秋]～12月21日[冬至](約5ヶ月間)

募集方法：はがき、ホームページからの入力

応募はがき付パンフレット
“あなたが感じる
「季節のことば」を募集します。”
配布(約6,000部)

【配布先】
公開イベント「季節のことば、今昔物語。」
(第4回日本気象協会メセナ)会場にて
気象友の会、国立大学、放送大学、
国立博物館等



応募はがき付パンフレット
“あなたが感じる
「季節のことば」
大募集”配布(1万部)

【配布先】
全国38局の中央郵便局にて
(12月1日～約2週間)



2) 募集方法のおしらせ（広報）

募集方法のお知らせは以下のとおりです。

日本気象協会ホームページ トピックス

書籍しおり

“教えてください！”

あなたが感じる

「季節のことば」

配布(1万部)

2012年12月1日～

(約2週間)

【東京】気象庁内 津村書店

新栄堂書店 サンシャイン店

ジュンク堂書店 池袋本店

【埼玉】ジュンク堂書店 大宮ロフト店2千枚

【大阪】ジュンク堂書店 大阪本店2千枚

【名古屋】ジュンク堂書店 ロフト名古屋店2千枚

【京都】ジュンク堂書店 京都店2千枚

日本気象協会 PRホームページ 「暦の上では」での案内 (全応募期間)

Web 上での広報
(Twitter、Facebook)
「季節のことば」募集の
呼びかけを実施(随时)

3) Web 応募フォーム

ホームページでの応募フォームは以下の3種類です [() 内は応募期間]。

①[簡易版]あなたが感じる季節のことば応募フォーム
(10/4～12/21)

②5万円の旅行券がもらえる「あなたが感じる季節のことば」を募集中 (8/31～10/4)

③チャレンジ36
(10/4～12/21)

This screenshot shows the first type of web application form. It includes a header with terms of use and a large text area for comments. Below this are several input fields: 'Name' (名前), 'Name (Kotae)' (名前のよみ), 'Pen name' (ペンネーム), 'Postal code' (郵便番号), 'Address' (県名、住所), 'Age' (年齢), 'Phone number' (電話番号), and 'Comments' (コメント). There are also dropdown menus for 'Seasonal Phrases' (季節のことば) and 'Seasonal Phrases Period' (季節のことばの時期).

名前
名前のよみ
電話番号またはメールアドレス
季節（春夏秋冬ほか、から選択）
季節のことば 1
季節のことばの時期 1
コメント 1
季節のことば 2
季節のことばの時期 2
コメント 2
自由記載

This screenshot shows the second type of web application form. It has a similar structure to the first one but with more detailed input fields. It includes 'Name' (名前), 'Name (Kotae)' (名前のよみ), 'Pen name' (ペンネーム), 'Postal code' (郵便番号), 'Address' (県名、住所), 'Age' (年齢), 'Phone number' (電話番号), and 'Comments' (コメント). The 'Comments' section is expanded to include specific fields for each month: 'Seasonal Phrases for January (1月上旬)', 'Seasonal Phrases for January (1月中旬)', 'Seasonal Phrases for January (1月下旬)', and so on through December.

名前
名前のよみ
ペンネーム
郵便番号
県名、住所
年齢
電話番号
季節のことば春
季節のことば春の時期、コメント春
季節のことば夏
季節のことば夏の時期、コメント夏
季節のことば秋
季節のことば秋の時期、コメント秋
季節のことば冬
季節のことば冬の時期、コメント冬
季節のことば（季節問わず）
季節のことばの時期、コメント
自由記載

This screenshot shows the third type of web application form, specifically for the 'Challenge 36' period. It features a vertical list of 36 numbered boxes, likely for selecting seasonal phrases for each month. The interface is identical to the second form but with a different visual presentation of the list.

名前
名前のよみ
電話番号またはメールアドレス
季節のことば 1月上旬
季節のことば 1月中旬
季節のことば 1月下旬
～
季節のことば 12月上旬
季節のことば 12月中旬
季節のことば 12月下旬
(全 36 個記載)
自由記載

◇ホームページの
入力画面と
入力項目一覧

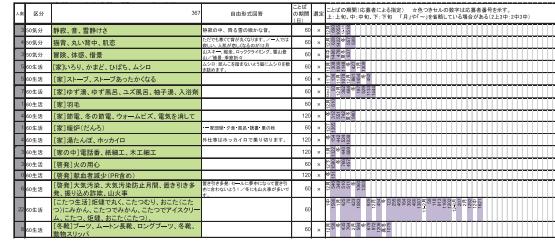
4) 「あなたが感じる季節のことば」応募データの整理

「季節のことば」募集では、長い応募期間の中でホームページの入力形式が3つあったり、1枚のはがきにたくさん書いてあったり…と1回の投稿で応募されたことばの数は異なりました。たくさん書いた人がプレゼント抽選で不利にならないよう配慮しながら応募者からのデータの整理を行いました。

具体的には、「春夏秋冬」4個のことばを1セットとして応募者番号をつけています。1枚に4セット分書いた人は4つの応募番号がついてプレゼント抽選の時に当選する確率が高くなりまし。ちなみに、Web応募フォーム③「チャレンジ36」で36個全部書いた方は、春夏秋冬の9セットなので9つの応募番号がつけられました。

最終的には1つのことばを1件として取り扱い、季節別の傾向等を調査したり、「季節のことば」選考用のデータベース(DB)にまとめたりしました。なお、データ整理の時の季節区分は気象学的な区分を利用しています。

「季節のことば」データベース作成（イメージ）

応募はがき	プレゼント抽選用 DB	「季節のことば」選考用 DB
		
		<p>[データ整理時の季節区分]</p> <p>春:3月・4月・5月 夏:6月・7月・8月 秋:9月・10月・11月 冬:12月・1月・2月</p>

5) 「季節のことば」応募データの概要

① 「季節のことば」の応募数は?

応募期間(平成 24 年(2012 年)8 月 7 日[立秋]～12 月 21 日[冬至]、約 5 ヶ月間)に応募された「季節のことば」の応募総数は 5150 件(春:1245 件、夏:1261 件、秋:1211 件、冬:1433 件)にのぼりました。同じ意見を集約した後のことばの数は 1588 件(各季節 400 件程度)でした。

期間ごとの応募者には以下のようない傾向がありました。

10 月～11 月中旬：「気象友の会」の方が多数。

11 月下旬以降：大学関係者(住所と年齢構成から判断)が多数。

12 月：全国の中央郵便局で手渡ししたパンフレットを利用したはがき応募
書店配布のしおりをみての Web 応募など一般の方が多数。

応募期間は長くても、はがき付きパンフレット等の配布から 1～2 週間のうちに応募される傾向がありました。

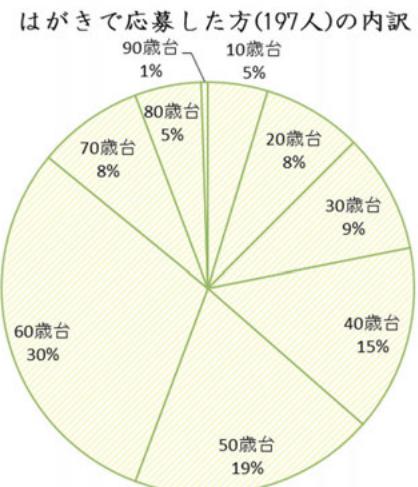
② どんな人たちが応募したでしょうか?

日本各地から応募されたはがきは 276 通でした。
はがきで応募した方々の年齢別の内訳をみると、
60 歳台が 30% と最多で、次いで 50 歳台が 19% で
した。

最年少は 10 才、最年長は 92 歳の方でした。

男女比(男女はお名前から判断)は、男性 39%、
女性 61% でした。

Web 応募者のデータは、入力時に年齢や性別を
入力しない形式のため、年代別や性別での集計は
できませんでした。



③応募された「季節のことば」は？

季節のことばの種類をみると、春は「植物」、「気分」、夏は「動物」、「気象」、秋は「星空(月)」、「植物(紅葉)」、「食べ物」、冬は「気象」や「雪」、「行事」に関することが多く寄せられました。

表 季節のことばの種類と応募数

季節	春 3月～5月	夏 6月～8月	秋 9月～11月	冬 12月～2月
①寒暖	9	26	17	28
②気象	28	57	23	38
③星空(月も)	2	5	14	12
④雪				24
⑤病	3	6	7	18
⑥植物	81	28	49	14
⑦動物	30	60	27	21
⑧気分	58	46	21	20
⑨生活	50	52	45	32
⑩スポーツ	8	12	13	15
⑪農業	10	7	11	4
⑫食べ物	22	26	47	34
⑬行事	25	14	27	65
⑭暦	37	28	29	40
⑮震災	16	1	1	1
⑯地名や人物	31	50	24	30
⑰不明	1	0	4	4
合計	411	418	359	400

「季節のことば」に添えて、“ことば”にまつわる心温まる思い出なども数多く寄せられました。中には、人生を振り返りながら多数記載してくださった方もいらっしゃいました。

各季節で“人気のことば”（応募者数の多かったことば）は次のとおりです。

<p>「春のことば」(応募者数)</p> <p>「入学式」(17名) 「春一番」(17名) 「花粉症(くしゃみなど)」(15名) 「雪解け」(14名) 「春眠(春眠暁を覚えず、眠気など)」(13名) 「春がすみ」(12名) 「ふきのとう」(12名) 「桜」(12名) 「芽吹き」(11名) 「花祭り」(11名) 「つし」(10名) 「菜の花」(9名) 「震災」(9名) 「おぼろ月」(8名) 「花吹雪」(8名) 「春風」(8名) 「鯉のぼり」(8名)</p>	<p>「夏のことば」(応募者数)</p> <p>「蝉しぐれ」(19名) 「夏休み」(19名) 「入道雲、積乱雲」(17名) 「海水浴」(16名) 「花火」(16名) 「お盆」(15名) 「七夕、七夕祭り」(13名) 「夕立」(11名) 「雷、雷雨」(11名) 「夏祭り」(11名) 「梅雨」(10名) 「ひまわり」(9名) 「蟬」(9名) 「節電」(9名) 「夏至」(8名) 「熱帯夜」(8名) 「梅雨明け」(8名) 「高校野球、甲子園」(8名)</p>
<p>「秋のことば」(応募者数)</p> <p>「紅葉」(18名) 「運動会」(16名) 「落葉」(15名) 「紅葉狩り」(14名) 「冬支度」(13名) 「稻刈り」(13名) 「台風」(10名) 「秋分」(10名) 「いわし雲」(9名) 「コスモス」(9名) 「夜長」(9名) 「学芸会」(8名) 「小春日和」(8名) 「キノコとり」(8名) 「七五三」(8名) 「秋刀魚(サンマ)」(8名)</p>	<p>「冬のことば」(応募者数)</p> <p>「木枯らし」(16名) 「クリスマス」(16名) 「冬至」(15名) 「こたつ(こたつで丸、こたつでみかんなど)」(14名) 「雪かき」(13名) 「イルミネーション」(12名) 「霜柱」(10名) 「白鳥、白鳥飛来」(10名) 「冬休み」(10名) 「スキー」(9名) 「マラソン」(9名) 「オリオン座」(8名) 「冬ごもり」(8名) 「冬靴(ブーツ、ムートン長靴等)」(8名) 「鍋」(8名) 「大掃除」(8名)</p>

春は「入学式」と「春一番」、夏は「蝉しぐれ」と「夏休み」が人気でした。

秋は、「紅葉」や「落葉」など彩りに関することばが多かったです。

冬は雪に関することばが多かったですが、さまざまな言葉で表現されていた分、同じ言葉を応募した人数は少なかったです。

【備考】“あなたが感じる季節のことば”に応募されたことばの印象

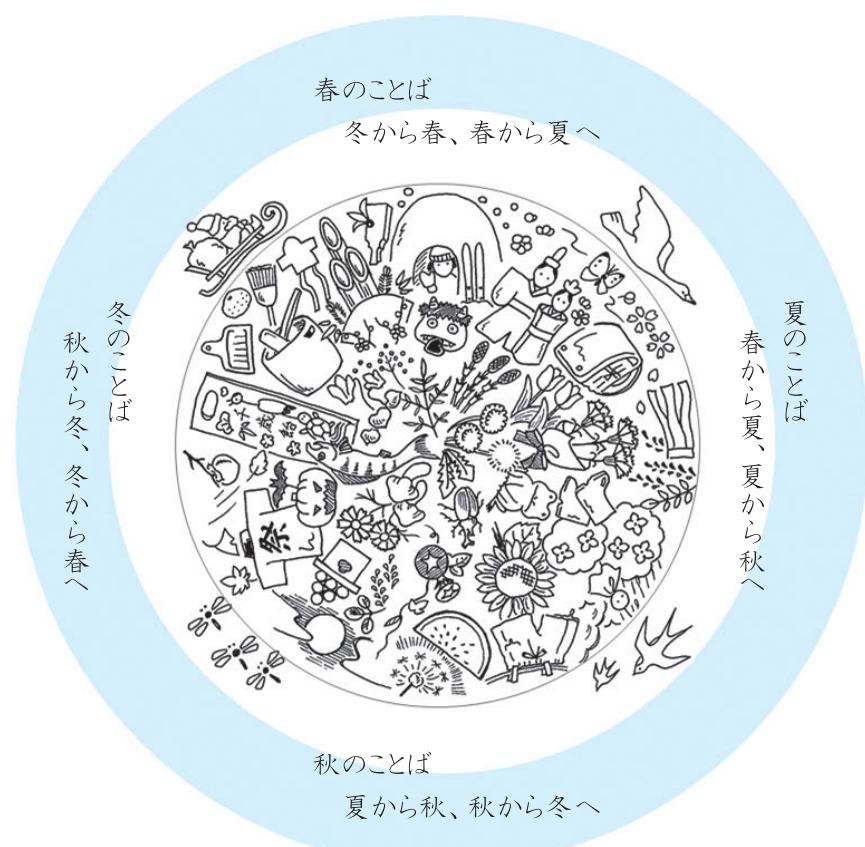
まず、春には「入学」や「芽吹き」など“はじまり”を感じることばが多くかったです。春、夏、秋と季節がめぐる中で、次の季節を待つ気持ち、裏腹に名残惜しい気持ちやそれらを反映した「季節のことば」があり、厳しい寒さに耐えつつ数々の行事をこなす「冬のことば」がつづいて、また春へというめぐりでした。

行事や暦のことばは日付がわかりますが、応募されたことばの大半は日付を限定するものではありませんでした。

また、「ことばが示す期間」は、季節によって違いました。春は移り変わる花(植物)など1～2週間ぐらいを示すことばが多く、冬は2～3ヶ月間(ほぼ冬中)を示すことばが多くかったです。

集まった「季節のことば」は、寒暖に関するつぶやきから、行事、服装など身近な生活のこと、食べ物、植物、動物など、1つ1つは「当たり前」と感じるものが多いですが、ことばの集合体からは“季節のことば”は思い出でもあり、未来でもある」ということがよくわかりました。

「季節のことば」の選定にあたっては、“季節のめぐり”や“ことばがつながっていく感覚”を大切にしていこうという方向性も話されました。



選定する“季節をめぐることば”的イメージ

(4) 選考委員会での議論

「季節のことば36選」は、事務局が整理した応募データ集をもとに各委員の事前の選定作業を行い、2回の選考委員会で検討した結果決まりました。

この節では、第1回選考委員会前の検討内容と選考委員会での議論についてまとめました。なお、第1回選考委員会では「二十四節気ひとこと解説」が提案されています。

1) 選考委員会前の検討内容

選考委員会を開催する前の平成25年2月4日（月）、各選考委員に募集結果の概要をまとめた報告書や応募データの一覧が送られました。これらの資料をもとに選考委員が各自ことばを絞り込む作業を行いました。各委員の作業結果を事務局が第1回選考委員会（2月25日（月）開催）までにとりまとめました。



選考委員へ送付された資料（イメージ）

応募されたことばは、寒暖に関するつぶやきをはじめ、データ整理の時点で17区分に分類されていました。

「季節のことば」の区分	①寒暖 ②気象 ③星空（月も） ④雪 ⑤病 ⑥植物 ⑦動物 ⑧気分 ⑨生活 ⑩スポーツ ⑪農業 ⑫食べ物 ⑬行事 ⑭暦 ⑮震災 ⑯地名や人物 ⑰不明
-------------	---

応募されたことば数が多いため、各委員のことばの絞り込み作業の段階では、最初から20～30個程度に絞るのではなく、例えば「行事」などシナリオを決めたうえで、シナリオにそって1年のめぐりが思い浮かぶようなことばを選定していただきました。

「季節のことば」選定作業の流れ

① シナリオ(選定する基準)を決める。シナリオ数は複数でも可能。

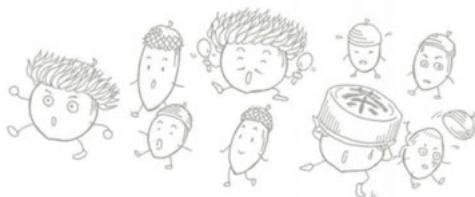
② シナリオにそった季節のことばを仮選定。

「季節のことば一覧」のシナリオに近い区分からことばを選ぶ。

あれば、「一押しのことば」も選定します。

(参考)シナリオの例

「みんなの意見で選定～応募の多い言葉で季節をめぐる～」「ひらがなで選ぶ」「少数意見もピックアップ」など選者のセンス(特定のお題や目線)で選んでもよいことに。



また、選考委員長と事務局との事前の打ち合わせにおいては、「ことばの選定基準に関する見解」が出されました。

「ことばの選定基準に関する見解」

(選考委員長を交えた事務局との打合せ [1/25] より)

- ◆人物等の固有名詞は外す。
- ◆バレンタインなど全国的に定着している行事は入れるが、二十四節気と七十二候は選定しない。(新しく、「季節のことば」を選ぶため。)
- ◆気象用語そのもの(台風、積乱雲など)は選ばない。
- ◆長い言葉(8文字以上)は選ばない。
- ◆期間が限定できる言葉のみを選ぶ必要はない。行事一覧にする必要はない。また、選ばれた言葉には「1月上旬のことば」のように短い期間をあてはめることはしない。
- ◆「当たり前」のことばや多数意見を大切に!
- ◆季節のことばへのコメントから選んでもよい。
- ◆選定委員から“応募者の意図を代表できるような言葉(造語も可)”を提案してもよい。
- ◆委員長「心がやわらぐ言葉がほしい」



2) 第1回選考委員会

第1回選考委員会は2013年2月25日(月)に行われました。

出席は選考委員6名(新田、岡田、片山、梶原、長谷川、山口)、日本気象協会事務局でした。

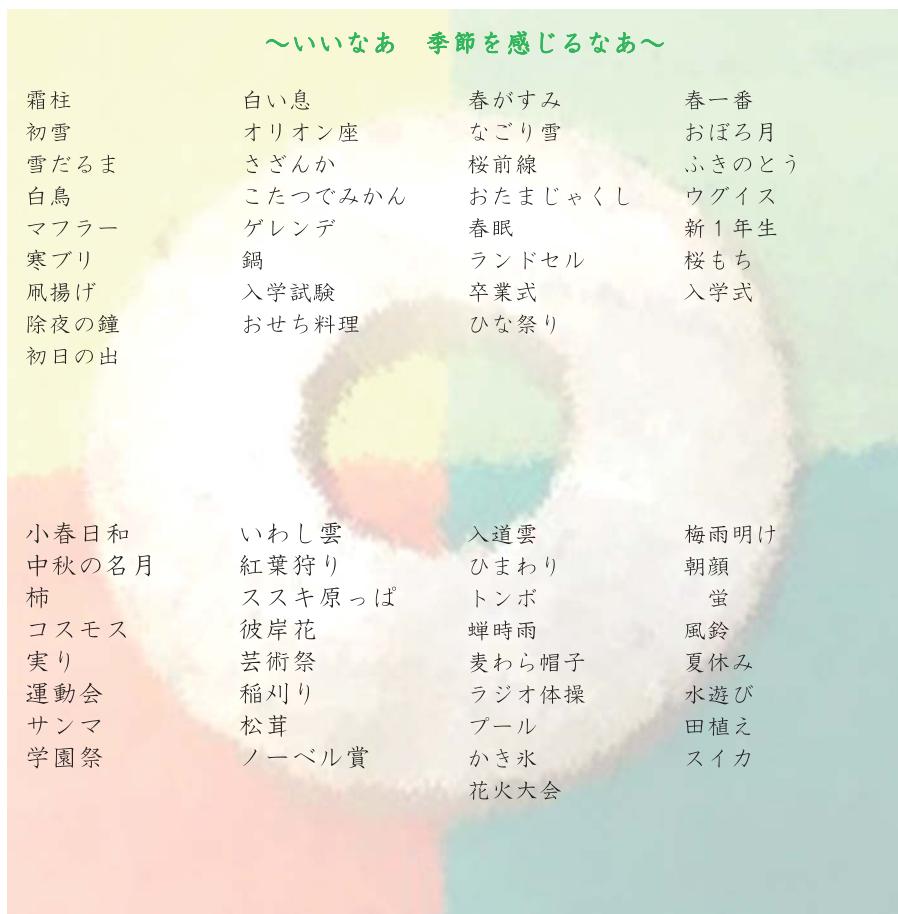
はじめに選定の基準について検討し、一般的な行事に自然(天気や動植物など)が加わると季節をイメージしやすいことで合意しました。ただし、天気については情緒がある場合もあれば、自然災害を引き起こす場合もあり、後者の方ばかりでは、「心やわらぐことば」とはほど遠くなると指摘されました。

つぎに選考委員の(一次)選定結果を紹介します。

あなたが感じる季節のことば 選考委員の目線から

～行事と風物詩の組み合わせで選びました～	
◇木枯らしの頃 ◇冬本番(真冬)	◇光の春
冬将军 初雪 ゆず湯	ひな祭り 春寒
クリスマス サンタクロース	ネコヤナギ、つくし、椿
紅白歌合戦 歳末	菜種梅雨(のころ)
正月、初詣 冬木立(冬枯れ)、流水	桜花(のころ)
寒中見舞い、風花	入学式 花冷え、花吹雪、花筏
バレンタインデー	おぼろ月、おたまじゃくし
桜の開花予想始まる	水ぬるむ
寒の戻り、春浅し	春うらら、春愁、藤の花
梅、沈丁花	ゴールデンウィーク
春一番(の季節始まる)	子供の日 鯉のぼり 風薰る 風光る
スギなど花粉症の季節(始まる)	新茶 五月うつ
黄砂	母の日 つつじ
◇残暑 ◇秋霖 ◇秋本番 ◇木枯らしの頃	◇梅雨 ◇夏本番 ◇残暑
秋彼岸 秋風、新涼	父の日 梅雨前線、紫陽花
コスモス、キンモクセイ	山開き 蛍舞う
秋雨前線	七夕 湿気強し(湿度高し)
月見 新米、実りの秋	ひまわり
紅葉のたより	短夜
秋の日はつるべ落し 夜長	猛暑日、熱帯夜、蝉しぐれ
渡り鳥	盆帰省ラッシュ
七五三 木枯らし、しぐれ	ヒートアイランド
ワイン新酒、紅葉盛り	夏バテ
秋冷え(のころ)	暑気払い

◇緑字は季節のうつりかわりの様子、青字は季節の行事のことば、黒字は行事のころに対応して選定した季節のことばを示します。



＜選定委員の選定理由から＞

- ◆情景を思い浮かべやすいことばがいいですね。まだ、絞れていませんが、いいと思うことばをたくさん選びました。
- ◆春からは「春一番」と「春眠」を
夏からは「入道雲」と「蝉しぐれ」を
秋からは「いわし雲」と「紅葉」を
冬からは「オリオン座」と「イルミネーション」を押します。
- ◆「自然」「景観」から季節の特色をとらえている言葉でかつプラスイメージの言葉を選びました。
- ◆オノマトペで季節を表してみるというシナリオです。
冬は「しんしん」、春は「ねむねむ」、秋は「さやさや」、夏は「むんむん」などを考えています。

これも入れましょう！（選考委員 3名）

春隣 小春日和 バレンタインデー
しばれる つらら 霧氷 初冠雪
しぶき氷 寒の戻り 風花
白鳥飛来 箱根駅伝 ルミナリエ

木枯し 小春日和 時雨 冬将军
風花 初雪 お歳暮 すす払い
年越し

北風 息凍る 雪 鍋 クリスマス
年の瀬、正月 ふたご座流星群

錦秋 つるべ落とし 木枯らし
しぐれ 結露 曜月夜 アキアカネ
残暑 涼秋 秋りん 秋雨前線
紅葉前線 紅葉狩り 霧寒
赤とんぼ ポージョレヌーボー

残暑 月見 稲刈り 夜長
紅葉狩り いわし雲 運動会
七五三 初霜

台風 紅葉 名月、月見 渡り鳥
収穫

春一番 菜種梅雨 花冷え
春うらら おぼろ月夜 桜前線
春光 春寒 花吹雪 花筏 桜月夜

年新た 寒中 光の春 余寒
水ぬるむ 曜月 桜前線 霞立つ
卯の花くたし

雪解け 春一番 桜咲く 花見
出会いと別れ 新緑

蟬しぐれ 热帯夜 蛍舞う
かなとこ雲 緑夏 入道雲
炎暑 高校野球 かけろう(陽炎)

灯籠流し
五月晴れ 風薰る 早苗
更衣 梅雨入り
クールビズ 入道雲
月遅れ盆帰省 蟬時雨

梅雨 入道雲 蟬しぐれ
お盆 七夕 ベルセウス座流星群

これも面白いと思います！（選考委員 3名）

(冬の訪れの予感から、実際の冬、
そして春間近の喜び)
木枯らし1号 小春日和
星降る夜 鍋料理 寒梅
ふきのとう

柚子湯 クリスマス 雪
除夜の鐘 初詣 餅 七草粥

オリオン座 イルミネーション
しんしん

(夏の終わりのセンチメンタルな気持ち
から秋真っ盛りを経て、冬への覚悟)
残暑 秋刀魚 いわし雲
高い空 黄昏 キンモクセイ
紅葉狩り 虫の声 小春日和
冬支度

金木犀 台風 中秋の名月 紅葉

いわし雲 紅葉 さやさや

(厳しい冬から春めいて来る喜び、春
の到来の実感、春から夏が顔を出し始
める)
春一番 なごり雪 花吹雪
芽吹き 春爛漫 春うらら 風薰る

節分 バレンタインデー 雛祭
東日本大震災忌 花粉症
桜 鯉のぼり

春一番 春眠 ねむねむ

(気がつけばもう汗ばむ夏が！照りつ
ける日照り、うんざりな夏、しかしそ
れも程なく終わりを告げる兆しが)
衣替え 梅雨明け 入道雲 日傘
ひまわり 蟬時雨 花火 土用波

新茶 筍 梅雨 入道雲 蟬 浴衣
土用謹 七夕 朝顔
原爆忌（広島と長崎）
終戦記念日 お盆

積乱雲 蟬しぐれ むんむん

第1回選考委員会では、最終的には、人気のあることばを参考にして、「季節のことば」としてふさわしいものを51個選びました（下表を参照）。

「季節のことば」候補（1）

No.	ことば	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	暦学・文学	気象学
1	初詣		1月1日～3日											冬	冬
2	雪おろし			1月～2月										冬	冬
3	節分			2月3日										冬	冬
4	春一番				2月（立春から春分までの間）									春	冬
5	バレンタインデー				2月14日									春	冬
6	ひな祭り				3月3日									春	春
7	寒の戻り			3月										春	春
8	なごり雪				3月（寒の戻りとともに）									春	春
9	おぼろ月				3月～4月									春	春
10	入学式				4月									春	春
11	花吹雪					3月下旬～4月								春	春
13	春眠					4月（新年度の疲れで）								春	春
12	菜種梅雨				4月頃									春	春
14	風薫る					5月（風薫る5月）								夏	春
15	鯉のぼり					5月5日子どもの日								夏	春
16	卯の花くたし					5月の長雨、梅雨のはしり								夏	春
17	あじさい						6月（梅雨のはじまり）							夏	夏
18	梅雨						6月～							夏	夏
19	蛍、螢舞う						6月～7月							夏	夏
20	蝉しぐれ		7月～8月											夏	夏
21	ひまわり		7月～8月											夏	夏
22	入道雲			7月～8月（真夏を代表する雲として）										夏	夏
23	七夕			7月～8月（7日7日と旧暦なら8月上旬）										夏	夏
24	浴衣		7月～8月											夏	夏
25	夏休み		7月～8月											夏	夏
26	残暑			8月～9月（立秋過ぎから）										秋	秋
27	朝顔			7月～8月（夏休みのイメージで）										秋	夏
28	お盆			7月～8月（月遅れ盆は8月15日頃）										秋	夏
29	原爆忌（広島と長崎）		8月6日と8月9日											秋	夏
30	花火			8月（夏休みと重ねて）										秋	夏
31	ペルセウス座流星群		8月中旬の数日間											秋	夏

注：「節分」のみ第1回選考委員会終了後に日本気象協会で候補として追加した。

「季節のことば」候補（2）

No.	ことば	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	暦学・文学	気象学
32	野分き													秋	秋
33	いわし雲									9月～10月（秋を感じる頃として）				秋	秋
34	虫の声													秋	秋
35	秋祭り													秋	秋
36	キンモクセイ													秋	秋
37	中秋の名月													秋	秋
38	秋刀魚													秋	秋
39	冬支度													秋	秋
40	秋雨													秋	秋
41	七五三									11月15日頃				冬	秋
42	時雨										11月（しぐれが降りはじめる頃）			冬	秋
43	紅葉狩り										10月～12月（山の紅葉から里の紅葉まで）			冬	秋
44	さざんか										11月（花が咲きだす頃）			冬	冬
45	木枯らし1号										11月（秋から冬へ変わる時期）			冬	冬
46	小春日和										11月（「小春」に相当するため）			冬	冬
47	風花										12月（雪が風に舞う頃）			冬	冬
48	イルミネーション										11月～12月（冬のイルミネーションとして）			冬	冬
49	オリオン座										12月～2月（冬空に輝くイメージで）			冬	冬
50	クリスマス										12月25日			冬	冬
51	除夜の鐘										12月31日			冬	冬

第1回選考委員会で選ばれた原案は、ことば数が51個と多いので、最終的には第2回選考委員会で再度選考することになりました。原案のことばについては、事務局がことばの意味やことばが示す時期などを再度調べています。

なお、第1回選考委員会では、二十四節気をわかりやすく解説する資料として、委員から原案「（仮称）二十四節気の一言解説」が出されました。この原案について検討し、「立春 春の生まれるころ」から「大寒 寒さ極まるころ」まで、各節気を短い解説でつづった「二十四節気ひとこと解説」が誕生しました。

3) 第2回選考委員会

第2回選考委員会は2013年3月13日(水)午後に行われました。

出席は選考委員8名(新田、足立、石井、岡田、片山、梶原、長谷川、山口)、日本気象協会事務局でした。

【選考のポイント1】月ごとのことばを選ぶことに

第2回選考委員会では、最終選考の前に、「暦学・文学」と「気象学」の季節区分が異なることが問題点として提起されました。

<季節区分の違いについての議論から>

「春一番」が立春すぎてから吹く強い風ならば、「春一番」を“冬のことば”としてはいけない。もし、“冬のことば”とするならば私は委員を降ります。

「暦学・文学」では立春(2月4日頃)からが春、一年のはじまり、これは絶対にゆずれません。

「気象学」での区分は、現在では一般的。教科書でも「春は3月から5月」と教えるのでそのような認識をもちやすいですが、実際に1年が四つに分かれていると考えるのも便利的なものです。気象学的にみたら梅雨や秋雨の時期も長く、実際は6つの季節があるとも考えられます。

応募されたコメントでもありましたが、近年、春と秋が短くて、暑いか寒いか、夏季と冬季の二季しかないかも知れませんね。

「季節のことば選考委員会」は季節区分を決める会ではないので、厳密な季節区分にはこだわらずに代表的な季節区分が2つあることを併記しつつ、1月から12月の“月ごとのことば”として選んで、最終的に一年をめぐる季節のことばが選べればよいと思います。

月ごとに選ぶ場合、「七夕」のように7月と8月にあるような場合は選びにくくなります。

月ごとに選ぶ場合、「歳時記」と異なる月にことばを配置するのは避けたいです。

1つのことばから別のことばを連想できる場合も多いので、選定しにくいことばをあえて選ばなくとも全体として季節のめぐりが連想できる“ことば群”になっていればよいのではないかと思われます。

議論の結果、ことばの選び方については、1月から12月の順で月ごとに選ぶことに決まりました。春・夏・秋・冬の順はとらず、“春は立春から”という暦学・文学的な季節区分にもこだわらない、気象学的な季節にもこだわらないことになったのです。

【選考のポイント2】5 1選から3 6選へ

第1回選考委員会で選ばれたことばを、ふたたび吟味しました（以下）。

季節区分 暦学・文学	気象学	月	No.	第1回選考委員会で選ばれたことば 灰色枠：選もれ 黄色枠：応募多数	検討内容
冬	冬	1月	1	初詣	1月に「寒」の字がつくことばを入れたい。
		1月	2	雪おろし	「寒中見舞」や小寒・大寒のイメージで。→「寒稽古」を追加
		2月	3	節分	「豆まさき」にする。2月に「光の春」を入れたい。→「節分」のままで
		2月	4	春一番	「春のことば」人気No.1 災害となることもあるが「木枯らし1号」と対に。
	春	2月	5	バレンタインデー	
		3月	6	ひな祭り	
		3月	7	寒の戻り	「寒の戻り」は歳時記では2月。
		3月	8	なごり雪	「なごり雪」は「寒の戻り」で降るので、「なごり雪」の方を選定。
		3月	9	おぼろ月	「春がすみ」「おぼろ月」も似ていて人気のことば。「おぼろ月」の方で。
		4月	10	入学式	「春のことば」人気No.1(春一番と同数で)
		4月	11	花吹雪	人気の「桜」は入学式と重なるが、時期をずらして「花吹雪」とする。
		4月	13	春眠	「春のことば」人気No.4(No.2の花粉症と合わせるとNo.1に)
		4月	12	菜種梅雨	「菜種梅雨」・「卯の花(たし)・「梅雨」では雨ばかりになる。
夏	夏	5月	14	風薫る	
		5月	15	鯉のぼり	「大型連休」も「鯉のぼり」で代表させる。
		5月	16	卯の花(たし)	GWあとしのぎとした空気感を連想できるため「卯の花」とする。
		6月	17	あじさい	
		6月	18	梅雨	雨に関することばが多く応募されたが「梅雨」で代表させる。
		6月	19	蛍、螢舞う	「螢舞う」の方を選ぶ。
		7月	20	蝉しぐれ	「夏のことば」人気No.1 「蝉」や「蝉の声」も人気があるが代表として。
		7月	21	ひまわり	
	秋	7月	22	入道雲	「積乱雲」ではなく「入道雲」の方を。
		7月	23	七夕	「七夕」は歳時記では8月。混乱をまねかないよう選もれ。
		7月	24	浴衣	「花火」ともイメージが重なるので選もれ。
		7月	25	夏休み	「夏のことば」人気No.1(「蝉しぐれ」と同数)。
		8月	26	残暑	「夏休み」を7月に復活させて、「花火」をやめる。
		8月	27	朝顔	「あさがお」は秋(立秋後)の季語。花に露がつき夏を惜しむイメージ。
		8月	28	お盆	
		8月	29	原爆忌(広島と長崎)	
		8月	30	花火	「送り火」としてもよい。
		8月	31	ペルセウス座流星群	「流れ星」にして解説を加える。
		9月	32	野分き	「野分き(台風)」は夏から秋と長期間にわたり警戒が必要。
冬	冬	9月	33	いわし雲	
		9月	34	虫の声	
		9月	35	秋祭り	「秋祭り」は収穫祭のイメージで10月とする。
		9月	36	キンモクセイ	花の咲く時期が地域によってかなり異なるため選もれ。
		9月	37	中秋の名月	「十五夜」「十三夜」も含めて「お月見」にする。
		9月	38	秋刀魚	「いわし雲」を選んだので、「秋刀魚」も連想できることから選もれ。
		10月	39	冬支度	
		10月	40	秋雨	
		11月	41	七五三	「七五三」に「小春日和(秋晴れ)」や「ざんか」にイメージを重ねる。
		11月	42	時雨	
		11月	43	紅葉狩り	「紅葉狩り」は10月に。「紅葉前線」をもみじ前線と読ませることに。
		11月	44	ざんか	
		11月	45	木枯らし1号	「木枯らし」は「冬のことば」人気No.1 「木枯らし1号」で冬の到来を強調。
		11月	46	小春日和	
		12月	47	風花	「風花」は青空に舞う、関東なら1月。「冬將軍」がよい。
		12月	48	イルミネーション	「クリスマス」と重なるイメージ重なる。
		12月	49	オリオン座	星座だけで季節を表現するには無理がある。
		12月	50	クリスマス	「クリスマス」でイルミネーション、プレゼント、サンタなどを代表させる。
		12月	51	除夜の鐘	「冬のことば」人気No.1は「クリスマス」。「イルミネーション」も人気。

ことばの選定にあたっては、51個からひと月あたり2～3個までしぶることにしました。しかし、実際に選定していたところ、「ひと月3個でちょうどよく選べそう」という目途がたち、最終的には(3個)×(12ヶ月)で36個のことばを選定することになりました。

同じ時期に重なることばは、どれか一つを選定することにしました。この時、選定したことばで他のことばや情景がイメージできるものを優先しています。このために、必ずしも人気のあることばが選ばれているとは限りません。

ことばの吟味についての議論を次に紹介します。

<ことばの吟味についての議論から(1)>

1月に「寒」のつくことばを入れたい。「小寒」「大寒」と寒さが極まっている様子をイメージできることばをぜひ。

- ・「寒中見舞」は「暑中見舞」ほど大々的ではない。
- ・「寒稽古」なら寒い時期に寒さに立ち向かう勇ましいイメージになる。「雪おろし」は雪が降れば日々たんたんとやる、どちらかというと受け身のイメージなので対比になるのでは。

「雪」に関してはさまざまなことばが応募されたが、「雪おろし」でよいか。

- ・「風花(かざはな)」は素敵なことばなので入れたい。風花は日本海側の雪雲が山脈でさえぎられて(太平洋側では降らないものの)山越えした雪が少しづらつくもの。青空に舞っているイメージ。きれいな情景だが、「長い冬を迎える」実感にはほど遠い。「風花」は北関東(地域限定)のイメージ、「雪」の字がある方がわかりやすい。
- ・「雪だるま」は雪がたくさん降らないとできないが、日々の生活とは違う。
- ・「雪かき」は雪国の冬に密着したことばだが、場所によっては半年近く雪かきが必要で、月のことばに当てはめられないと思う。
- ・屋根の「雪おろし」が必要なほどの豪雪地帯は大半が日本海側で、積雪がピークとなる2月には本当に厳しい仕事となる。ニュースなどでも紹介されるので、実際に雪が多くない地域でも「冬の寒さがピークとなる2月」をイメージできることはとして「雪おろし」がよい。
- ・2月に「雪おろし」なら「雪」が続かないよう、12月は「冬将軍」に。「西高東低」「冬型の気圧配置」はよく知られているが、気象用語そのものなので、気象予報の解説でおなじみの「冬将軍」にしてバランスをとる。

冬のことばは行事が多く、日付も近いが大丈夫か？

- ・月に3つ選定しても10日ごとに期間を区切ったことばを選定しなくてよい。
- ・年末は、「クリスマス」「除夜の鐘」「初詣」と短期間で違う宗教行事がつづくが、歴史の中でさまざまな文化を取り込んできたのがよく出ていて興味深いならびになっている。
- ・日付が近いことで、かえって師走の慌ただしさから新年へつなぐ生活のさまがよく出ている。

〈ことばの吟味についての議論から(2)〉

「クリスマス」VS「イルミネーション」(男女で意見が分かれた唯一のことば)

- ・冬では「クリスマス」を直接書いている人が多かったですが、実際にはクリスマスイルミネーション、クリスマツリー、ローソクなど12月(師走)の情景となることばがたくさん応募されている。代表して「イルミネーション」でもよいのでは? 「長い夜を彩る冬の光」としてふさわしい。ロマンチック・。
- ・「イルミネーション」は年中みられるようになってきている。「クリスマス」から「イルミネーション」を含めていろいろな情景を思い浮かべることができる。
- 「クリスマス」は宗教行事だが、日本ではキリスト教徒でなくてもプレゼントをもらったりして12月の行事として定着している。

「春一番」と「木枯らし1号」を選んで、「台風」は選定外に

- ・時に災害となる「春一番」や「木枯らし1号」だが、季節の変り目を実感できることばである。
- ・「台風」は夏から秋のことばだが、きたらいつでも注意するもの。「季節のことば」と別枠で考えてもよい。震災についても同じように別枠で考えたい(後日、自然災害は「防災カレンダー 過去の重大自然災害37事例」としてとりまとめた。)。ただし、「原爆忌(広島と長崎)」は終戦記念日などと合わせて、「忘れてはいけない」ことばとしてあえて「季節のことば」に入れる。ちなみに応募した方は80歳を越えている方々。

5月後半のことばとして「卯の花」

「卯の花くたし」は選考委員会で人気のことば(注:応募されたことばではない)

本格的な梅雨がくるまえ、梅雨のはじりの5月の長雨が「卯の花くたし」。「×くだし」ではない。

- ・文学的で情緒があっていい。昔の人が「咲いた卯の花が腐(く)ちてしまうのでは」と心配して名づけた「卯の花くたし」、ぜひいましょう!
- ・6月に「梅雨」を選んでいるので、雨のことばばかりになるので別なことばにしたいが、行事もなく、「五月病」などマイナスイメージのことばも多く応募されている。
- ・「卯の花」なら「5月後半のしつどりした空気」が連想できる。
- ・新年度の行事やGW(ゴールデンウィーク)で気が張っていたのがひと息つけるころ、五月病になっている人もいるかも知れない、そんなこんなをひっそり咲く白い「卯の花」に投影させる。

星空のことば 8月に「流れ星」

- ・「冬はオリオン座が美しい」と言われるのは、太平洋側なら空気が澄んで晴れているからよく見える。雪国でも雪雲の切れ間から見えるオリオン座は印象的だろう。宮沢賢治の歌も影響があるかも。
- ・一部を除いて星座は実際には1年中みえるので、星座の名前だけで“季節のことば”を表現するのはむずかしい。
- ・「ペルセウス座流星群」はお盆のころで時期が決まっている。ことばは「流れ星」にして8月戦没者の追悼、お盆の帰省、願いごとをする気持ちなどを盛り込みたい。「流れ星」はどの季節でも見られるので、ペルセウス座流星群であると解説をつける。

くことばの吟味についての議論から(3) >

「節分」でよいか。「光の春」である立春に相当することばを入れたい。

- ・「豆まき」の方がよい。節分の行事は豆まきだけではない。私の歳では年の数で豆を食べるのが大変なんですね～。ここにいる人はみなそうだと思います。
- ・「節分」なら「光の春」を表現しており、豆まきなどの関連行事も思い浮かぶ。

「バレンタインデー」はどの程度の人気ですか？私にはピンときませんが。

- ・年代によって感じ方が異なることば。
- ・「義理チョコ」の日でもあり、休日にあたるとホッとする人も多い。
- ・直接書いた人数は7人ですが、「チョコレート」と書いた人もいるので、多くの人が注目する行事になっている。代表させて「バレンタインデー」がよい。

「ひな祭り」は旧暦で行っている地域もある。

- ・「ひな祭り」は「鯉のぼり」(5月)と対になるのでいいと思う。
- ・「桃の花」、「桃の節句」も美しいが、3月3日で桃の花を飾っているのは、行事に合わせて咲かせた花。お雛様に桃の花なら旧暦の方が合うかも知れないが現在は3月が一般的。

「鯉のぼり」は4月からではないか。

- ・「1日飾り」は縁起が悪いとされるので、端午の節句の前から飾るのが常識。
- ・「風薰る」とも共通するが、さわやかな5月の風にたなびく鯉のぼりが一般的だと考えられる。

秋のことばは絞り込むのが難しい。

- ・ひとつのことばからたくさん連想できるものを残す。
- ・「いわし雲」は秋の気配を感じる雲、こじつけですが、イワシとたらサンマも連想できる。さらにサンマから秋のおいしいものが次々連想できる。
- ・秋には、「収穫」「稻穂」や食べ物も入れたい。
- ・「秋祭り」は収穫へ感謝するお祭りなので10月に。「秋祭り」で実りの秋を連想できる。
- ・五感で感じるという点では、「キンモクセイ」の香りは秋が来たことを匂いで感じられる。ただし、「キンモクセイ」は種類もあり、桜(ソメイヨシノ)のように気象に対応して咲いていくわけではない。地域によって異なるので、これもこじつけですが「いわし雲がきれいに出る頃にはキンモクセイも薫る～」と連想する。
- ・「もみじ」、「紅葉」はぜひ入れたいが、時期を考えなくてはいけない。紅葉だと山の紅葉から里の紅葉までの長い期間になる。気象の解説では「紅葉前線」ということばがある。10月は高い山からや北国から紅葉前線が降りてくる。秋のことば人気No.1の「もみじ」のフレーズも残したい、「紅葉(もみじ)前線」と読ませましょう。
- ・月見は十五夜(9月)だけでなく十三夜(10月)もある。「中秋の名月」だけだと片見月で縁起が悪い。9月も10月も「月」ではバランスが悪い、月以外に。
- ・ことばが違っても「月」に関する応募はとても多い。ぜひひとつ入れたい。
- ・そもそも「中秋の名月」は9月7日～10月8日程度の範囲で変動する。平均的には秋分の日あたりで、10月になる回数のほうが少ないという意味では9月のことば。
- ・「お月見」が人気のことばなので、これで2回の名月を代表させる。9月にお月見をしたら、片見月にならないよう次は10月に～と連想できる。

実際には7月は4つなので全37個の「季節のことば」を選定しています。最後に、ひと月あたり3つのことばを選んだことにちなんで「季節のことば36選」という呼び名が決まりました。ことばの表記や読み方、ことばの順番も検討され、「季節のことば36選」が正式に決まりました。

4) 「季節のことば36選」発表

選考委員会終了後、約一ヶ月半をかけて選考委員コラム「季節のことば36選の選考を終えて」を掲載した「季節のことば36選」のリーフレットを作成し、2013年4月25日(木)に発表しました。

ホームページ「暦の上では」

The screenshot shows the homepage of the 'Kōki no Ue de wa' website. At the top right, there's a vertical banner for the '36 Selected Seasonal Phrases' (季節のことば36選). The main content area features a grid of seasonal phrases from January to December. Below the grid is a download button for the 'Leaflet'. To the right of the grid, there's a sidebar with links to the selection committee's report and a link to the 'Old Tales of the Seasons' (季節のことば今昔物語).

季節のことば36選	季節のことば36選の選考を終えて	季節のことば選考委員会（日本版二十四節気専門委員会）
季節のことば36選	季節のことば36選	季節のことば36選
1月 初詣、寒稽古、雪おろし	7月 蟬しぐれ、ひまわり、入道雲、夏休み	1月 初詣、寒稽古、雪おろし
2月 節分、バレンタインデー、春一番	8月 原爆忌(広島と長崎)、流れ星、朝顔	2月 節分、バレンタインデー
3月 ひな祭り、なごり雪、あはる月	9月 いわし雲、虫の声、お月見	3月 ひな祭り
4月 入学式、花吹雪、春眠	10月 紅葉(もみじ)前線、秋空、冬支度	4月 入学式
5月 風蓮、鶯のぼり、卯の花	11月 木枯らし1号、七五三、時雨	5月 木枯らし1号
6月 あじさい、梅雨、蛍舞う	12月 冬将軍、クリスマス、除夜の鐘	6月 冬将軍

リーフレットダウンロード

季節のことば36選

二十四節氣

二十四節氣 ひとこと解説

二十四節氣 文字

*1~*2 関東地方の統計値を参考 *3 ベルセウス波里群の極(8月 12~13日)

拡大する

お問い合わせ先
一般財団法人 日本気象協会 管理本部 管理部 事務課
TEL: 03-5958-8165(平日 10:00~17:00)
E-mail: mecenat@iwa.or.jp

サイトマップ | プライバシーポリシー | [tenki.jp](#)
© 一般財団法人 日本気象協会 2012

リーフレット（イメージ）



〈リーフレットの内容一覧〉

はじめに

「季節のことば36選」

「二十四節気ひとこと解説」

コラム1~4

季節のことば36選の選考を終えて

季節のことば選考委員

おわりに「なぜ季節のことばか？」

5) 応募者プレゼント

“あなたが感じる季節のことば”に応募した方のうち、“季節のことば36選”に選ばれた言葉を応募した方から抽選で4名様に5万円旅行券、応募者全員から抽選で、書籍「季節と暮らす365日」（日本気象協会編）、携帯型熱中症計などがプレゼントされました。プレゼントは合計100名様に送られました。

(5) 防災カレンダー　過去の重大自然災害 37 事例

2012年に行った「季節のことば」の公募では、自然災害に関することばが多く寄せられ、多くの方々の自然災害に対する関心の高さがうかがえました。「季節のことば選考委員会」においても、過去の自然災害を一覧にした「防災カレンダー」を作成してはどうかとの提案がありました。そこで、日本気象協会が過去の自然災害から下記の条件により事例を抽出し、『過去の重大自然災害 37 事例』として選定し、平成 25 年 7 月 9 日に発表しました。

◎選定基準

災害の原因を「大雨」「台風」「大雪」「火山噴火」「地震津波」の 5 つに分類しました。

「大雨」「台風」「大雪」「火山噴火」は、死者・不明者数の上位 5 件を選び、「地震津波」については被害が甚大なため上位 10 件としました。また、死者・行方不明者数が同数のものは追加しました。ただし、1944 年 12 月 7 日の東南海地震と 1946 年 12 月 21 日の南海地震は連動型地震と見なして 1 つの地震として扱いました。

平成に入ると、社会インフラの整備向上によって気象災害による人的被害は大幅に減少しました。しかし、経済活動への影響が大きくなっています。そこで「平成の顕著災害」として、死者・不明者数とは別に抽出しました。

◎発生日の決め方

「地震津波」「火山噴火」は、国交省 HP、気象庁 HP、中央防災会議の資料による発生日

「大雨」は、気象庁 HP にある観測資料から最大日降水量を記録した地点数が最多の日

「台風」は、上陸日を基本とするが、上陸していない台風については最接近日

「大雪」は、気象庁 HP にある観測資料から最深積雪を記録した地点数が最多の旬の中日(気象庁 HP に観測資料が無い場合は、気象官署のデータから同様の日を算出した)

「平成の顕著災害」のうち、「低温」と「高温」については現象が顕著に現れた月の中日

その後、『季節のことば 36 選』と『防災カレンダー　過去の重大自然災害 37 事例』を掲載したカレンダーを作成し、多くの方に日本人の心の豊かな再認識や防災・減災意識をもっていただくためプレゼントしました。また、豊島区、日本赤十字社、県立図書館などの多くの方に見ていただける施設へ掲示のお願いを行いました。



◇防災カレンダー 過去の重大自然災害37事例

NO.	災害原因	年	月	日	重大自然災害名(通称)など
1	大雪	1981年(昭和56年)	1	15	昭和56年豪雪(昭和55年12月～昭和56年3月)(死者・行方不明者152名)
2	地震津波	1995年(平成7年)	1	17	平成7年(1995年)兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災) (M7.3) (死者・行方不明者6,437名)
3	大雪	1963年(昭和38年)	1	25	昭和38年1月豪雪(昭和37年12月～昭和38年2月)(死者・行方不明者231名)
4	大雪	2011年(平成23年)	1	25	大雪(平成22年12月～平成23年3月)(死者・行方不明者131名)
5	地震津波	1605年(慶長9年)	2	3	慶長地震(東海・東南海・南海連動型地震) (M8.0) (死者・行方不明者20,000名)
6	大雪	2006年(平成18年)	2	5	平成18年豪雪(平成17年12月～平成18年3月)(死者・行方不明者152名)
7	大雪	2012年(平成24年)	2	15	大雪(平成23年12月～平成24年3月)(死者・行方不明者134名)
8	地震津波	1933年(昭和8年)	3	3	昭和三陸地震 (M8.1) (死者・行方不明者3,064名)
9	地震津波	1927年(昭和2年)	3	7	北丹後地震 (M7.3) (死者・行方不明者2,925名)
10	地震津波	2011年(平成23年)	3	11	平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災) (M9.0) (死者・行方不明者21,176名)
11	大雪	1984年(昭和59年)	3	15	昭和59年豪雪(昭和58年12月～昭和59年3月)(死者・行方不明者131名)
12	暴風※	2012年(平成24年)	4	3	低気圧による暴風・高波(東京都は曇の段階で企業に「一斉帰宅の抑制」を求めるという前例のない措置)
13	火山噴火	1792年(寛政4年)	5	21	雲仙岳噴火(死者・行方不明者15,000名) (地震及び岩屑なだれによる「島原大変肥後迷惑」、噴火津波)
14	地震津波	1896年(明治29年)	6	15	明治三陸地震 (M8.2) (死者・行方不明者21,959名)
15	大雨	1953年(昭和28年)	6	25	梅雨前線(死者・行方不明者1,013名)
16	地震津波	1948年(昭和23年)	6	28	福井地震 (M7.1) (死者・行方不明者3,769名)
17	大雨	1972年(昭和47年)	7	11	昭和47年7月豪雨(死者・行方不明者447名)
18	火山噴火	1888年(明治21年)	7	15	磐梯山噴火(死者・行方不明者461名) (岩屑なだれにより村落埋没)
19	低温※	1993年(平成5年)	7	15	低温・日照不足・長雨等(平成5年6月～10月) (水稻の作況指數74「著しい不良」、被害総額10,350億円)
20	大雨	1953年(昭和28年)	7	18	南紀豪雨(死者・行方不明者1,124名)
21	大雨	1957年(昭和32年)	7	25	諫早豪雨(死者・行方不明者722名)
22	火山噴火	1640年(寛永17年)	7	31	北海道駒ヶ岳噴火(死者・行方不明者700名) (火山爆発、噴火津波)
23	火山噴火	1783年(天明3年)	8	5	浅間山噴火(死者・行方不明者1,151名) (火碎流、土石なだれ、吾妻川・利根川の洪水による)
24	大雨	1953年(昭和28年)	8	14	南山城の大雨(死者・行方不明者430名)
25	高温※	2010年(平成22年)	8	15	熱中症(総務省消防庁の調べで7月～9月の3ヶ月で救急搬送者が53,843人。夏季の高温記録更新)
26	火山噴火	1741年(寛保元年)	8	29	渡島大島噴火(死者・行方不明者1,467名) (岩屑なだれ・津波による)
27	大雨※	2011年(平成23年)	8	30	台風第12号による大雨(紀伊半島にひとあめ雨量2,400mm超の記録的豪雨、深層崩壊多発)
28	地震津波	1923年(大正12年)	9	1	関東地震(関東大震災) (M7.9) (死者・行方不明者105,000名)
29	台風	1947年(昭和22年)	9	15	カスリーン台風(死者・行方不明者1,930名)
30	台風	1945年(昭和20年)	9	17	枕崎台風(死者・行方不明者3,756名)
31	竜巻※	1999年(平成11年)	9	24	竜巻(愛知県 豊橋市) (竜巻のスケールF3、日本最大級)
32	台風	1954年(昭和29年)	9	26	洞爺丸台風(死者・行方不明者1,761名)
33	台風	1958年(昭和33年)	9	26	狩野川台風(死者・行方不明者1,269名)
34	台風	1959年(昭和34年)	9	26	伊勢湾台風(死者・行方不明者5,098名)
35	地震津波	1891年(明治24年)	10	28	濃尾地震 (M8.0) (死者・行方不明者7,273名)
36	竜巻※	2006年(平成18年)	11	7	竜巻(北海道網走支庁 佐呂間町) (竜巻のスケールF3、日本最大級)
37	地震津波	1944年(昭和19年)	12	7	東南海地震(M7.9) (死者・行方不明者1,223名)
		1946年(昭和21年)	12	21	(連動型地震とみなし)
					南海地震(M8.0) (死者・行方不明者1,330名)